

2022年度第3四半期 決算補足資料

2023/2/13



2022年度第3四半期 決算サマリー

■ 第3四半期実績

ダイカスト日本 : 第2四半期の黒字回復から、黒字幅がさらに拡大。

ダイカスト北米 : 第2四半期に比べ、売上・収益ともに改善。
米国は、生産性改善・原価低減活動の遅れ、顧客の生産減影響や、エネルギー費・労務費等の上昇、従業員の定着・安定に苦戦。

ダイカストアジア : 第3四半期は黒字回復。
中国拠点(12月決算)が、4月～5月の第2四半期におけるロックダウン後、第3四半期(7月～9月)の販売量が回復。

■ 第4四半期見通し

下期は黒字基調が続くが、中国コロナ政策転換や半導体等部品供給不足等による自動車減産影響を受ける見込み。

一方で、顧客に対しエネルギー費や海外での労務費高騰について価格適正化を交渉中。

2022年度 第3四半期決算のポイント

(単位：百万円)

	2022年度				対前年度比	
	1Q	2Q	3Q	累計	3Q	累計
売上高	33,113	33,423	37,843	104,379	+8,779	+20,668
営業利益	△553	△645	732	△466	+1,510	+2,255
経常利益	△424	△396	702	△118	+1,389	+2,249
当期純利益	△649	△181	355	△475	+5,392	+6,342
売上重量*	75	71	83	76	+11	+3

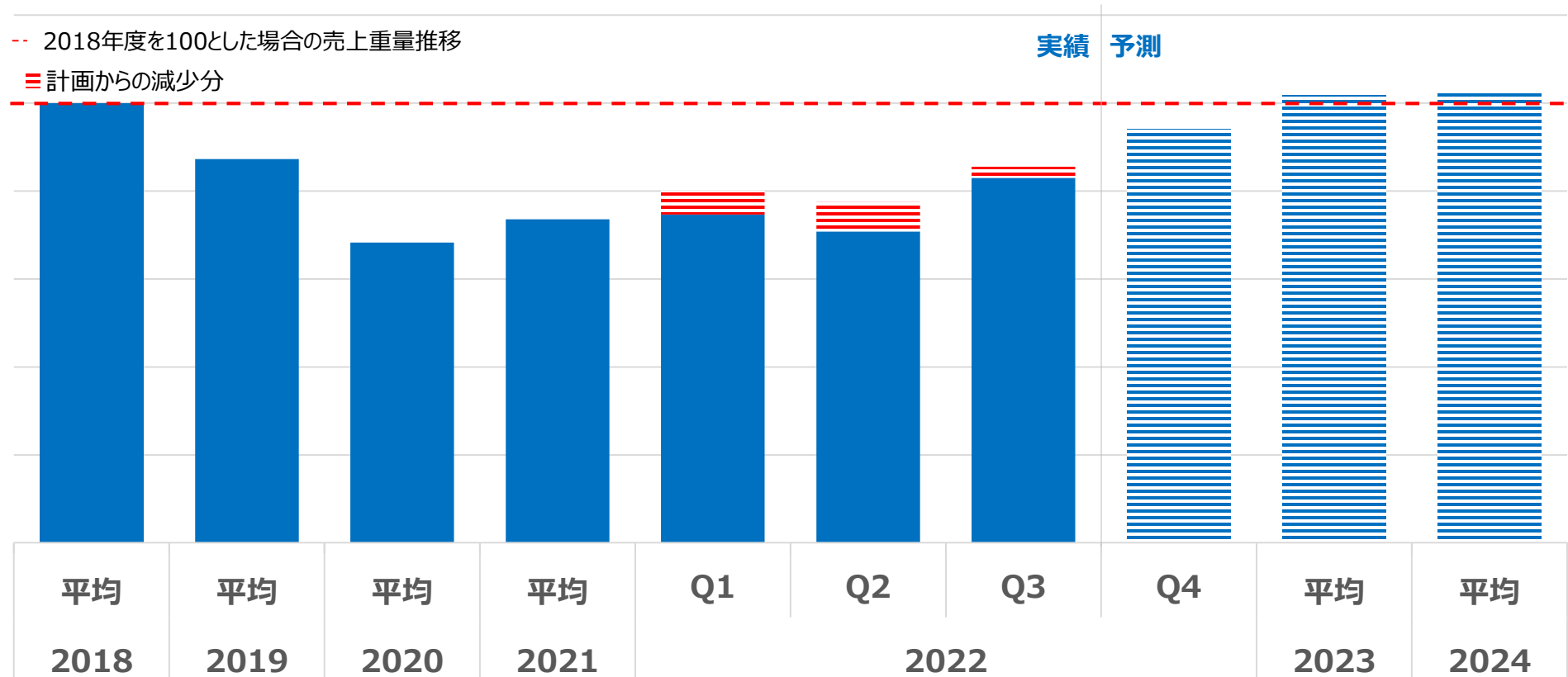
* 2018年度平均を100とした場合の指標

《全体感》

- 売上： 円安・地金価格の上昇等により売上高は前年同期比24.7%増。販売量は中国ロックダウンによる物流の停滞、長引く半導体不足等による自動車メーカーの生産減等を受け3.7%増に留まる。
- 営業・経常利益： 上期は半導体不足等による販売量減とエネルギー費上昇等による製造コスト増が収益を圧迫。3Qに入り中国ロックダウンからの回復等、各セグメントとも売上重量が持ち直し、加えて従前から取り組んできた生産性改善の効果もあり、単期の黒字転換を達成。
- 当期純利益： 営業利益、経常利益の下振れにより純損失を計上。3Q単期は黒字転換。

売上重量の推移

- 第3四半期は上期の中国ロックダウン影響から回復。半導体等の部品供給不足による自動車生産下振れ影響は続いているが、グループ全体では計画並みの売上重量を確保。
- 第4四半期および2023年度については、中国ゼロコロナ政策転換や半導体等部品供給不足等による自動車減産影響を再度精査中。



ダイカスト事業

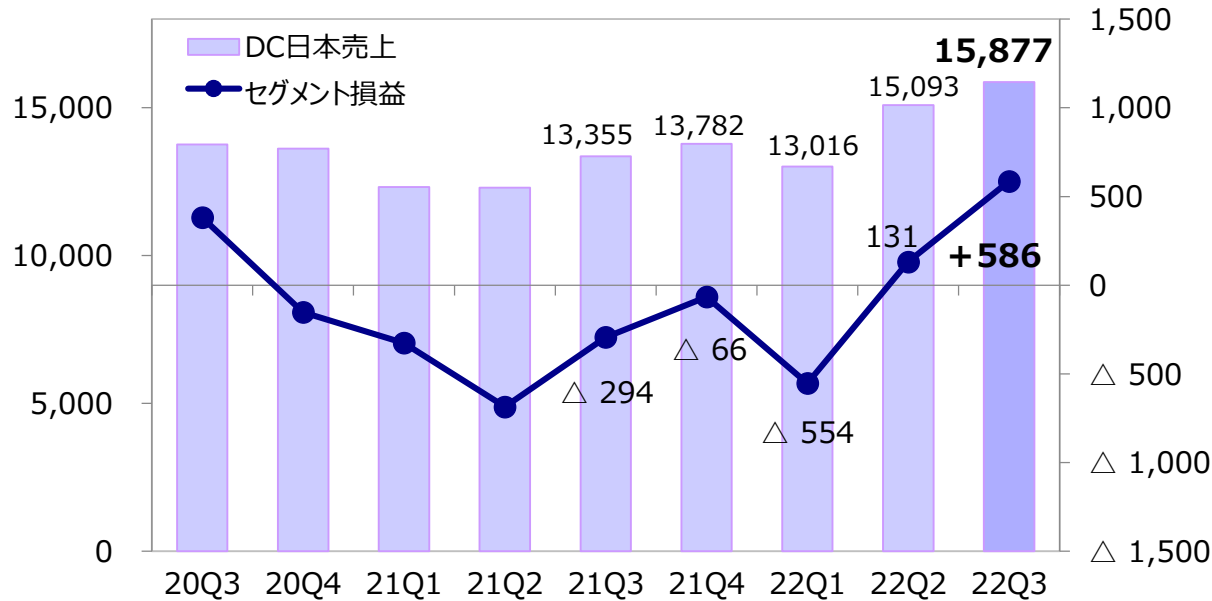
(単位：百万円)

		2022年度				対前年度比	
		1Q	2Q	3Q	累計	3Q	累計
日本	売上高	13,016	15,093	15,877	43,986	+2,522	+6,022
	セグメント 損益	△554	131	586	163	+880	+1,469
北米	売上高	8,357	8,659	9,793	26,809	+3,170	+5,996
	セグメント 損益	△441	△272	△ 213	△ 926	+282	+122
アジア	売上高	8,473	7,222	9,286	24,981	+2,738	+6,707
	セグメント 損益	340	△590	273	23	+395	+788

※ 北米セグメントのメキシコ工場及びアジアセグメントの中国工場は12月決算

ダイカスト日本

売上高／セグメント損益の推移 (単位:百万円)



〈第3四半期〉

売上：158億円 前年同期比 +25億円(+18.9%)

損益：5億円 前年同期比 +8億円 (黒字化)

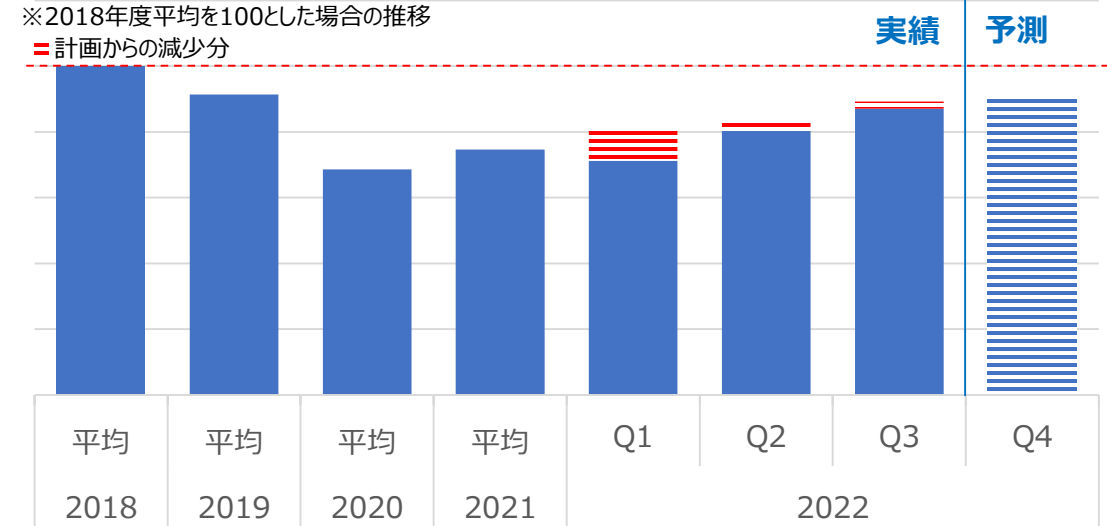
〈累計〉

売上：439億円 前年同期比 +60億円(+15.9%)

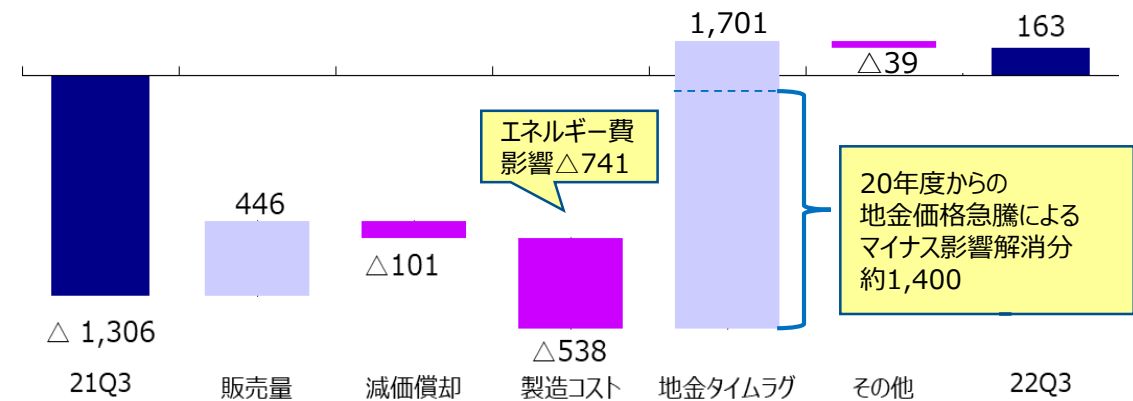
損益：1億円 前年同期比 +14億円 (黒字化)

- 自動車減産は続くものの、販売量は回復基調を維持。アルミ地金市況の上昇影響もあり増収。販売量増、エネルギー費等の諸コスト上昇分の価格転嫁推進、原価低減等により黒字化。

売上重量の推移

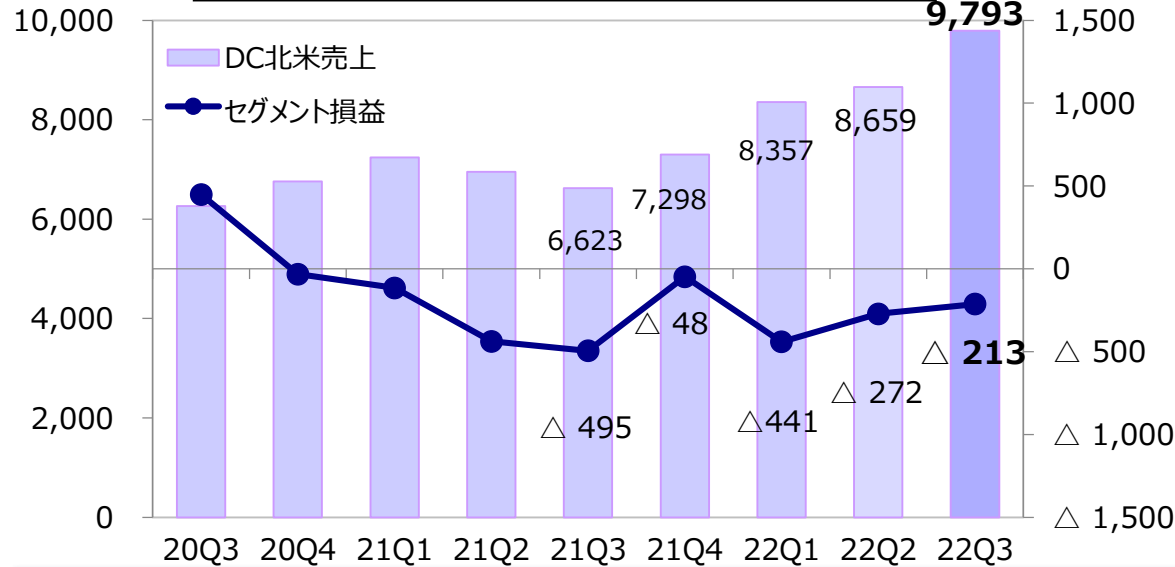


セグメント損益増減要因 (単位:百万円)



ダイカスト北米

売上高／セグメント損益の推移 (単位:百万円)



〈第3四半期〉

売上：97億円 前年同期比 +31億円(+47.9%)

損益：△2億円 前年同期比 + 2億円(赤字縮小)

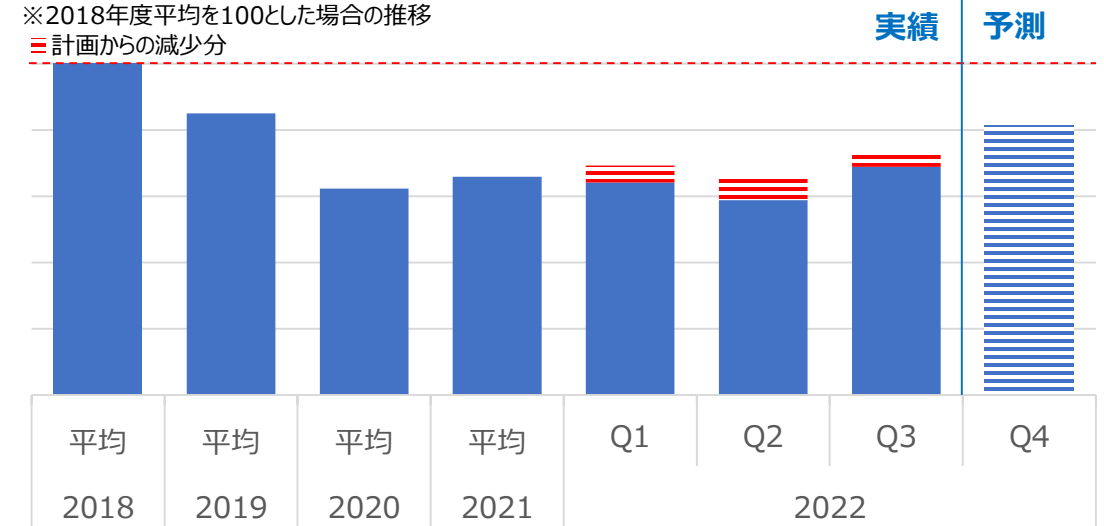
〈累計〉

売上：268億円 前年同期比 +59億円(+28.8%)

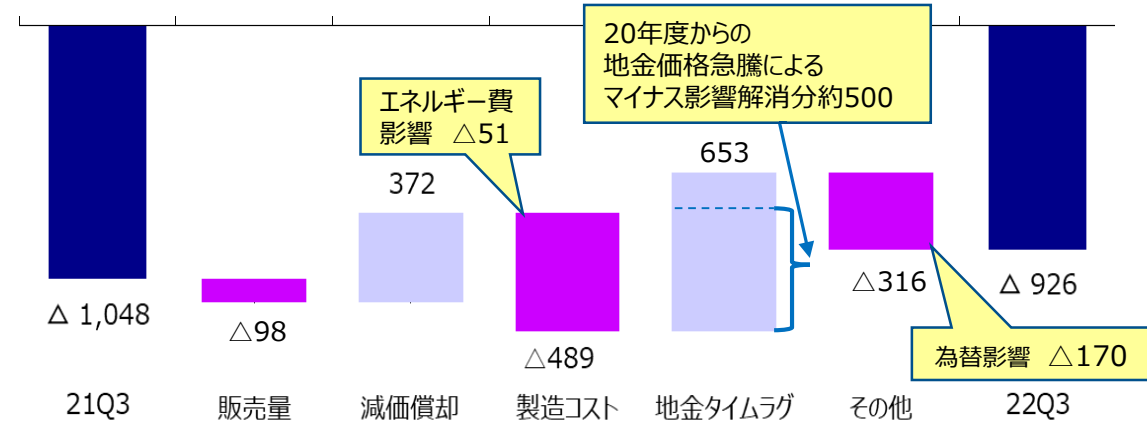
損益：△9億円 前年同期比 + 1億円(赤字縮小)

- 長引く半導体不足影響によりメキシコの販売量は前年同期比で減少するも利益を確保。
- 米国の販売量は上期比回復基調も計画比下振れ。収益面は、原価低減活動の定着効果はあるものの、エネルギー費、労務費等の上昇に伴う製造コストが増加。

売上重量の推移



セグメント損益増減要因 (単位:百万円)

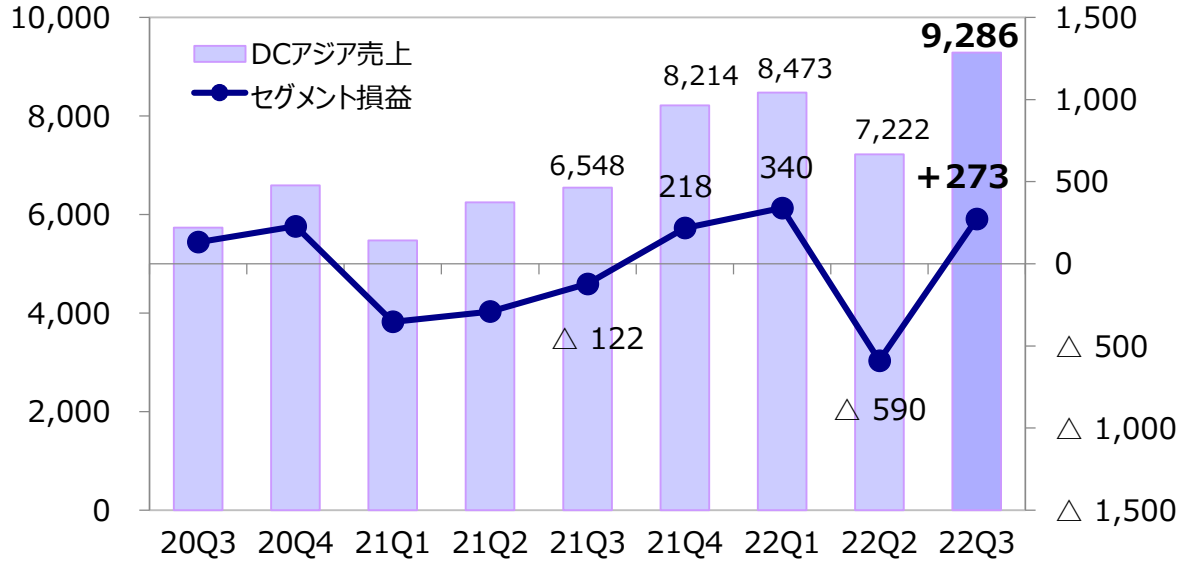


決算期:アメリカ3月期、メキシコ12月期

レート (21Q3⇒22Q3) アメリカ 111.40 ⇒ 135.41 メキシコ 108.57 ⇒ 128.03

ダイカストアジア

売上高／セグメント損益の推移 (単位:百万円)



〈第3四半期〉

売上：92億円 前年同期比 +27億円(+41.8%)

損益：2億円 前年同期比 +3億円 (黒字化)

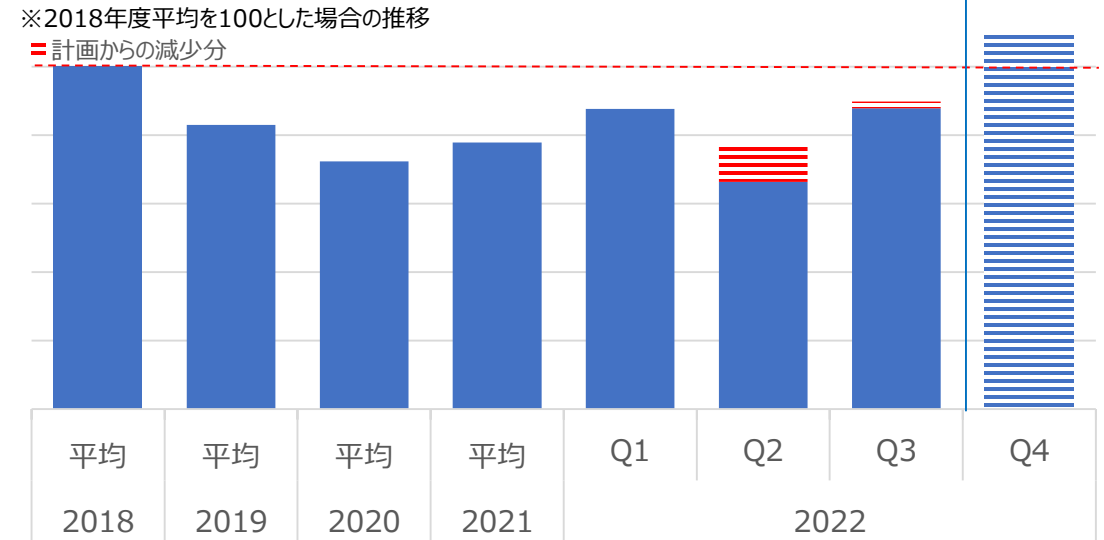
〈累計〉

売上：249億円 前年同期比 +67億円(+36.7%)

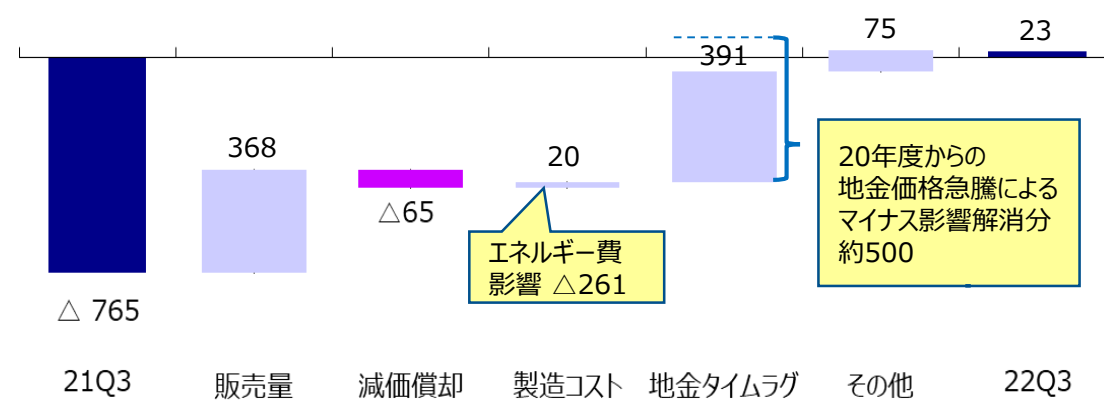
損益：0.2億円 前年同期比 +7億円 (黒字化)

➢ 12月決算会社である中国の7月～9月において販売量が回復。アルミ地金市況上昇影響もあり増収。収益も黒字を確保。

売上重量の推移



セグメント損益増減要因 (単位:百万円)



アルミニウム事業および完成品事業

(単位：百万円)

		2022年度				前年度比	
		1Q	2Q	3Q	累計	3Q	累計
アルミニウム 事業	売上高	2,100	1,820	2,107	6,027	+557	+1,645
	セグメント 損益	82	70	83	235	+26	+34
完成品 事業	売上高	1,165	629	780	2,574	△208	+297
	セグメント 損益	90	21	46	157	△27	△28

<アルミニウム事業>

- 売上：半導体不足等による自動車減産影響があるものの、販売重量は前年同期比3.0%増となる。アルミ地金価格の影響もあり増収。
- 損益：売上高の増加等により増益。

<完成品事業>

- 売上：主要販売先である半導体関連企業のクリーンルーム物件等の受注が増加し増収。前年同期比13.0%増となる。
- 損益：安定的な利益を確保。

Topic: 3月1日付 新経営体制

■スピーディかつ柔軟に変革を推進

- ✓ 加速する電動化
- ✓ メガサプライヤーのシェア拡大等自動車マーケットの変化
- ✓ 生産技術開発、商流変化に応じた営業活動
- ✓ カーボンニュートラル等社会課題への対応
- ✓ DX、データサイエンス等の活用による経営効率の向上

■経営体制の若返りで変革を牽引

平均年齢：52歳←63歳 (※社長+本部長の平均年齢)

氏名	職位・役職
高橋 新	代表取締役会長 (最高経営責任者)
高橋 新一	代表取締役社長 (最高執行責任者)
金田 尚之	品質保証本部長 (代表取締役 専務執行役員)
大島 康誉	製造本部長 (執行役員)
峯 憲一郎	営業本部長 (執行役員)
成家 秀樹	管理本部長 (執行役員)



Casting Our Eyes on the Future

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664

E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.com

URL: <https://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。